

- 6) 日時：平成17年2月2日(水) 午後4時30分～5時30分頃
会場：学際交流室(人文学部校舎〈旧教養校舎〉A棟3階)
研究報告：鈴木孝庸「イエール大学所蔵和古書の軍記もの(含関連書)について」
- 7) 日時：平成17年12月21日(水) 午後5時00分～6時30分頃まで
会場：総合教育研究棟 A棟3階 学際交流室
研究報告：橋本博文「佐渡における考古学上の未解明問題」
- 8) 日時：平成18年1月25日(水) 午後6時00分～8時30分
会場：総合教育研究校舎A棟3階 学際交流室
研究報告：荻美津夫「ササン朝ペルシアの宮廷音楽」
- 9) 日時：平成20年3月13日(木) 16時30分～18時00分頃
会場：総合教育研究棟 学際交流室
研究報告：飯島康夫「浦佐毘沙門堂裸押合祭りの民俗」
- 10) 日時：平成22年2月3日(水) 16時30分～18時00分頃
会場：総合教育研究棟 学際交流室
研究報告：菊地 真「古墳・古代における微地形発達と遺跡の土地利用状況～事例報告と「地考古学」研究の今後～」

「世界の視点をめぐる思想史的研究」の活動報告

研究代表者 栗 原 隆

研究の発表媒体として『知のトポス』を刊行するとともに、適宜、研究会を開催して成果を公開している。

刊行物

『知のトポス』（新潟大学人文学部哲学・人間学研究会 刊）を刊行して、思想史に埋もれた重要文献を発掘して、邦訳・紹介に努めている。内容一覧は左記のとおりである。

『世界の視点 変革期の思想』（2004年2月）

アヴィセンナ

論理学

山内 志朗 訳

I・カント

哲学的エンチュクロペディー講義

城戸 淳 訳

C・L・ラインホルト

否定的な独断論もしくは形而上学的な懐疑論のより詳細な叙述

片桐 朋乃・栗原 隆 訳

C・L・ラインホルト

意志の概念の自由についての説明

栗原 隆・片桐 朋乃 訳

G・E・シュルツェ

人間の認識についての懐疑論の思考様式の主要契機

栗原 隆 訳

『世界の視点 知のトポス』第1号（2006年3月）

ヨハネス・デ・ツェラヤ

論理学入門

山内 志朗 訳

カント

デュースブルク遺稿（一七七三～七五年）R4674-4684（上）

城戸 淳 訳

F・W・J・シェリング

絶対的な同一性－体系，ならびにそれと最近の（ラインホルト流の）二元論との関係について

栗原 隆 訳

* * * *

V・ヘスレ

空間・時間・運動
研究短信
小林 裕明 訳
前田 喜行

ヘーゲルのコルボラツィオン論における「誇り」の感情

『世界の視点 知のトポス』第2号(2007年3月)

I・カント

デュースブルク遺稿(一七七三～七五年)(下) 城戸 淳 訳

G・E・シュルツェ

エーネジデムス(部分訳) 栗原 隆 訳

G・W・F・ヘーゲル

芸術の哲学もしくは美学(一八二六年)・序論 栗原 隆 訳

* * * *

山内 志朗

存在と強度に関する試論(その一)

—— 西洋中世の存在論について ——

『世界の視点 知のトポス』第3号(2008年3月)

ゲッティンゲン書評

(カルヴェ／フェーダーによるカント『純粹理性批判』書評)

城戸 淳 訳

G・E・シュルツェ

エーネジデムス(部分訳) 栗原 隆・平川 愛 訳

ザロモン・マイモン

エーネジデムス宛のフィラレーテスの書簡 平川 愛・栗原 隆 訳

ザロモン・マイモン

超越論哲学についての試論 平川 愛 訳

F・W・J・シェリング

最近の哲学的文献の一般的概観(『哲学雑誌』第6号) 栗原 隆 訳

『世界の視点 知のトポス』第4号(2009年3月)

G・E・シュルツェ

エーネジデムス(部分訳) 栗原 隆・平川 愛・阿部 ふく子 訳

F・W・J・シェリング

ニートハンマー著『現代の教育教授理論における汎愛主義と人文主義の
抗争』への批評 阿部 ふく子 訳

* * * *

深澤 助雄

意味の発生

深澤 助雄

ヘルダー『言語起源論』とカッシーラー

『世界の視点 知のトポス』第5号(2010年3月)

C・L・ラインホルト

道德と宗教との間の必然的な連関についての、理性批判の結論

栗原 隆・阿部 ふく子・大塚 貴匡・福島 健太・保坂 希美 訳

J・G・フィヒテ

シュミット教授によって樹立された体系と知識学との比較

栗原 隆・阿部 ふく子 訳

ジャコブ・ロゴザンスキー

「Ungeheuerなもの」の限界で

—— カント『判断力批判』における崇高と怪物的なもの ——

宮崎 裕助 訳

* * * *

深澤 助雄

観得と形象

深澤 助雄

シンボルの受胎

研究会

研究会は、折々に開催されてきている。記録の残っているものだけ、以下に掲げる。

2006年

6月25日（日）——人間学合宿（於、上川・あすなる荘）

栗原 隆「虚無への供物としての知

——フィヒテのニヒリズムに対するヤコービの批判」⁽¹⁾

7月8日（土）——空間論フォーラム「体験される空間と表象される空間」

（於、CLLIC講義室）

矢萩 喜從郎（デザイナー）「触媒としての空間と身体」

佐藤 康邦（放送大学教授）「絵画空間と建築空間」

須田 朗（中央大学教授）「わたしのいる空間——ハイデガーの空間論」

野家 伸也（東北工業大学教授）「絵画空間の現象学」

8月18日（金）——公開研究会「芸術の〈近代性〉を捉え直す」

（於、CLLIC講義室）

栗原 隆「G・E・シュルツエの懐疑論に見る〈近代性〉」⁽²⁾

細田 あや子（新潟大学人文学部助教授）「一五世紀のフランドル絵画

——北方絵画における光と空気の描写」

岩城 見一（国立京都近代美術館館長）

「感性論から美学へ——Ästhetikの意味変容——」

8月19日（土）

小田部胤久（東京大学大学院助教授）

「近代的理念としての『さすらい』

——一つのロマン主義的テーマとその変奏」

尾崎 彰宏（東北大学大学院教授）「一七世紀オランダ美術に見る近代」

11月14日（火）——ヘーゲル・アーベント

（於，総合教育研究棟「人間学P S」）

栗原 隆「ヘルダーの『神』ふたたび」⁽³⁾

12月1日（土）——フォーラム「空間と眼差し」（於，CLLIC講義室）

鈴木 光太郎（新潟大学人文学部教授）「空間認知と眼差しをめぐる問題

——実験心理学から空間の哲学を見る」

小熊 正久（山形大学教授）「初期フッサールの空間論」

船木 亨（専修大学教授）「感覚の空間性」

神崎 繁（首都大学東京教授）「〈見え〉からの解放」

2007年

9月1日（土）——公開研究会「〈美〉は何を映すのか」

（於，CLLIC講義室）

栗原 隆「表象もしくは象が支える世界と哲学体系

——知的世界を構築する神話としての〈基礎付け〉と自己知の体系」⁽⁴⁾

細田 あや子（新潟大学人文学部准教授）「イタリア絵画の空間と光」

ギュンター・ゲバウアー（ベルリン自由大学教授）「ミメシスについて」

9月2日（日）——公開研究会「〈美〉は何を映すのか」

（於，クロスパルにいがた）

中川 明才（同志社大学文学部講師）「フィヒテ哲学における美の所在」

石見 衣久子（新潟大学大学院現代社会文化研究科）

「ディオニューソス像の再構築とノンノス」

伊坂 青司（神奈川大学外国語学部教授）「神話喪失の時代と『新しい神話』」

2008年

2月16日（土）——公開研究会「空間と私，形と私」

（於，CLLIC講義室）

矢萩 喜從郎(デザイナー)「〈形〉と私」

岩城 見一(京都国立近代美術館館長)「〈空間〉と私」

8月30日(土)——公開研究会「主体は感覚され得るか? 客体は触知され得るか? 造形を体感する中で考える」(於、新潟大学・新潟駅南キャンパスCLLIC講義室)

発表(一二時三〇分～一六時四五分)

浦上 麻衣子(新潟大学大学院現代社会文化研究科)

「レヴィナスにおける他者の顔」

阿部 ふく子(東北大学文学研究科)「ヘーゲルの啓蒙批判と教育・教養論」

栗原 隆「実体から主観へ——シュルツェによるラインホルトの書き換えをめぐる」

細田 あや子(新潟大学人文学部准教授)

「セガンティーニにおける風景と思想」

11月14日(金)——ヘーゲル・アーベント

(於、総合教育研究棟「人間学PS」)

栗原 隆「体系を支えるもの」

西山 雄二「20世紀フランス思想とヘーゲル受容」

12月25日(木)——『人文学の生れるところ』制作研究会

(於、総合教育研究棟F棟5階「人間学PS」)

栗原 隆「私たちは本当のことを話さなければならないのか?」⁽⁵⁾

2009年

3月7日(土)——国際シンポジウム「生の矛盾は解消されるのか」(一四時〇〇分～一七時三〇分・於、新潟大学駅南キャンパスCLLIC演習室)

平川 愛(新潟大学大学院現代社会文化研究科)

「マイモンの『規定可能性の原理』とカントの『汎通的規定の原理』」

満井 裕子（実践女子大学）

「ヘーゲルの体系における思弁的学と積極的学との関係」

久保 陽一（駒沢大学教授）「ヘルダーリンにおける生の認識」

クリスティーナ・エンゲルハルト（ケルン大学）

Das Problem des Widerspruchs in Hegels System

8月22日（土）—— 夏季公開研究会「空間と形に感応する身体」

（於、CLLIC講義室）

阿部 ふく子（東北大学大学院）「ヘーゲルの『アルプス紀行』について」

栗原 隆（新潟大学人文学部教授）「初期ドイツ観念論と懐疑論」

阿部 成樹（山形大学人文学部准教授）

「アンリ・フォション『かたちの生命』へのまなざし」

鈴木 光太郎（新潟大学人文学部教授）

「フェルメールとカメラ・オブスクラ」

渡辺 斉（新潟県新発田振興局地域整備部参事）

「中山間地域における芸術祭」

10月24日（土）東北哲学会第五九回大会（於、新潟大学統合脳研究センター）

共催・新潟大学哲学・人間学研究会

栗原 隆（新潟大学人文学部教授）

「感覚と懐疑——観念論の基礎づけをめぐる——」

一〇月二五日（日）東北哲学会公開講演

（於、新潟大学統合脳研究センター）

共催・新潟大学哲学・人間学研究会

深澤助雄（新潟大学人文学部教授）「身振りの言語」

11月25日（水）—— ヘーゲル・アーベント

（於、総合教育研究棟F棟5階「人間学P.S.」）

栗原 隆「意識の事実と観念論の基礎づけ」

12月8日(火)——18時30分～20時00分(於、総合教育研究棟G312教室)

白井 述「放射運動知覚と空間・身体、そしてその発達」

栗原 隆「私たちは〈美しいもの〉に接すると、どうして〈美しい〉と感動するのか？」⁽⁶⁾

2010年

3月8日(月)——国際シンポジウム「ヘーゲルにおける世界と精神」

(於、「ときめいと」)

栗原 隆 Takashi KURIHARA (Niigata Uni.)

Geist und Welt —— Der transzendente Idealismus als die eine geschichtliche Welt erbauende Mythologie ⁽⁷⁾

久保 陽一 Yoichi KUBO (Pof. Komazawa Uni.)

Unendlichkeit und Erkennen. Logik und Metaphysik Hegels als der transzendente Idealismus

クリストフ・ヤメ Christoph JAMME (Pof. Lüneburg Uni.)

Die Kunstreligion (Hegel, „Phänomenologie des Geistes“, Kap. VII)

8月20日(金)——夏季公開研究会「空間と形に感応する身体」

(於、「ときめいと」講義室)

田中 純夫(新潟市社会福祉協議会専務理事)

「ハイデガー哲学の可能性」

栗原 隆(新潟大学人文学部教授)

「信念と懐疑——ヤコービによるヒュームへの論及とドイツ観念論」⁽⁸⁾

納富 信留(慶應義塾大学文学部教授)

「アリストテレスにおける感覚と共通感覚」

細田 あや子(新潟大学人文学部准教授)

「自著紹介——よきサマリア人の表象」

堀江 珠喜(大阪府立大学教授)

「喜悦と官能——バプテスマのヨハネと聖セバスチアンの表象」

《註》

- (1) 伊坂青司・原田哲史（編）『ドイツ・ロマン主義研究』（御茶の水書房，2007年1月）に，同名論考として収載された。
- (2) 日本ヘーゲル学会刊『ヘーゲル哲学研究』一二号（こぶし書房，2006年12月）に，「意識と無——シュルツエとドイツ観念論——」として収載された。
- (3) 加藤尚武（編）『哲学の歴史 ⑦理性の劇場』に収められた「ヤコービ／ヘルダー」として結実した。
- (4) 『ヘーゲル体系の見直し』（理想社，2010年6月）に，同名論考として収載された。
- (5) 栗原隆（編）『人文学の生まれるところ』（東北大学出版会，2009年3月）に，同名論考として収載された。
- (6) 栗原隆・矢萩喜從郎・辻元早苗（編）『空間と形に感応する身体』（東北大学出版会，2010年3月）に収められた論考，「私たちは〈美しいもの〉の何処に，どのようにして〈美〉を見出すのか？——カントにおける「感応」とシェリングにおける「入れ込み」と」へと結実した。
- (7) 新潟大学現代社会文化研究科刊のNUSS『Glauben und Wissen in der Geistesgeschichte』に収載される予定である。
- (8) 東北大学哲学研究会刊『思索』43号（2010年10月）に収載予定。

イギリス・アメリカ相互交流に関する ディスコース研究

研究代表者 高橋正平

1. プロジェクトメンバー

高橋正平（代表者）

金山亮太

高橋康浩

平野幸彦

岡村仁一（協力者 教育学部）